



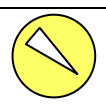


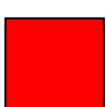
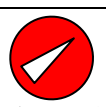


評価結果案（総括）（IV章第1節）

	損失の状態		損失の要因(評価期間中の影響力の強さと現在の傾向)								
	本来の生態系からの損失の大きさ	1950年代後半からの損失の大きさと現在の傾向	第1の危機	第2の危機	第3の危機	温暖化の危機	複合的な要因				
森林生態系	 現在、生物多様性が大きく損なわれている。	 現在、生物多様性が損なわれており、横ばいの傾向にある。	 評価期間中に強い影響があり、現在、影響は減少傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・改変 ○自然性の高い森林(人工林以外の森林)の伐採・人工林への転用 ○都市周辺等における宅地、交通用地、農地への転用 ■直接的利用 ○評価期間中、狩猟の影響は大きくない。 ○観賞・園芸用の動植物の捕獲・採取 ■その他 ○登山道の過剰利用 	 評価期間中に強い影響があり、現在、影響は横ばいの傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ○二次林(薪炭林)における薪炭採取等の利用の縮小 ○人工林における間伐・下草刈等の管理の不足。 	 評価期間中に中程度の影響があり、現在、影響は横ばいの傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■外来種 ○森林や山岳における外来種の侵入・定着・拡大 ○森林病害虫(マツ枯れ、ナラ枯れ)の被害 	 評価期間中に強い影響があったと思われる、現在、影響が増大していると懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○気温の上昇等(高山植生の衰退、その他種の分布や生物季節の変化のおそれ) 	○シカの分布・個体数の急速な拡大・増加による植生等への影響
農地生態系	—	 現在、生物多様性が損なわれており、なお損失傾向にある。	 評価期間中に強い影響があり、現在、影響は横ばいの傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・改変 ○都市周辺等における農地、ため池等の宅地等への転用 ○農法の変化や農地整備 ■水質汚濁等 ○農薬・化学肥料の不適切な使用による影響 	 評価期間中に強い影響があり、現在、影響は増大する傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ○二次林(農用林)・二次草原における肥料採取等の利用の縮小 ○農地における耕作放棄 ○ため池の減少 	 評価期間中に中程度の影響があり、現在、影響は増大する傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■外来種 ○農地、水路、ため池等における外来種侵入・定着・拡大(アライグマ、ブラックバスなど) 	 評価期間中に中程度の影響があったと思われる、現在、影響が増大していると懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○気温の上昇等(種の分布や生物季節の変化のおそれ) 	○農作物や家畜・家禽の地方品種等の栽培飼育の減少
都市生態系	—	 現在、生物多様性がやや損なわれており、横ばいの傾向にある。	 評価期間中に中程度の影響があり、現在、影響は減少する傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・改変 ○都市内の緑地(農地や林地)の宅地への転用 ■水質汚濁 ○生活・産業排水による都市河川の水質の悪化 ○大気汚染・光害・ヒートアイランド現象 	—	—	 評価期間中に中程度の影響があったと思われる、現在、影響の増大が懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○影響は定かではないが、外来種は拡大する傾向にある。 	 評価期間中に中程度の影響があったと思われる、現在、影響が増大していると懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○気温の上昇等(種の分布や生物季節の変化のおそれ) 	—
陸水生生態系	 現在、生物多様性が大きく損なわれている。	 現在、生物多様性が大きく損なわれており、なお損失傾向にある。	 評価期間中に非常に強い影響があり、現在、影響は横ばいの傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・改変 ○湿原の農地や宅地への転用 ○湖沼の埋立による農地や宅地への転用 ○河川・湖沼におけるダムや堰の整備、水際線の人工化、川砂利の採取による河床低下等 ■直接的利用 ○観賞用の動植物の捕獲・採取 ■水質汚濁 ○生活・産業排水による河川・湖沼の水質悪化 	—	—	 評価期間中に非常に強い影響があり、現在、影響は増大する傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■外来種 ○河川や湖沼における外来種の侵入・定着・拡大(ブラックバス、ブルーギルなど) ■化学物質 ○分解されにくい化学物質の生物の体内への蓄積 	 評価期間中に中程度の影響があったと思われる、現在、影響が増大していると懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○気温・水温の上昇等(河川・湖沼における鉛直循環の乱れ、その他種の分布や生物季節の変化のおそれ) 	—
沿岸・海洋生態系	 現在、生物多様性が大きく損なわれている。	 現在、生物多様性が大きく損なわれており、なお損失傾向にある。	 評価期間中に非常に強い影響があり、現在、影響は横ばいの傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・改変 ○自然海岸の人工化、干潟・藻場・サンゴ礁等の埋立 ○海砂の採取 ■直接的利用 ○一部では回復力を上回る漁獲 ■水質汚濁 ○生活・産業排水による閉鎖性海域における水質の悪化 	—	—	 評価期間中に強い影響があり、現在、影響は増大する傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■外来種 ○食用の持ち込み、パラスト水・船体付着による沿岸域への外来種の侵入・定着・拡大 ■化学物質 ○分解されにくい化学物質の生物の体内への蓄積 	 評価期間中に強い影響があったと思われる、現在、影響が増大していると懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○気温・水温の上昇等(高水温によるサンゴの白化、海水の減少、海洋の酸性化のおそれ、その他種の分布や生物季節の変化のおそれ) 	○サンゴ食生物の異常発生 ○藻場における磯焼け
島嶼生態系	 現在、生物多様性が大きく損なわれている。	 現在、生物多様性が大きく損なわれており、なお損失傾向にある。	 評価期間中に非常に強い影響があり、現在、影響は横ばいの傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・改変 ○森林から農地、宅地等への転用 ○河川・海岸の人工化 ○農地等から浅海域への赤土の流入 ■直接的利用 ○観賞用の動植物の捕獲採取 	—	—	 評価期間中に非常に強い影響があり、現在、影響は増大する傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> ■外来種 ○島嶼への持ち込み、貨物付着、ペットや家畜などの逸出・放置による外来種の侵入・定着・拡大 	 評価期間中に強い影響があったと思われる、現在、影響が増大していると懸念される	<ul style="list-style-type: none"> ○気温・水温の上昇等(高水温によるサンゴの白化、種の分布や生物季節の変化のおそれ) 	—